

森づくり通信

No.51



2019年(平成31年) 3月26日(火)発行
発行/金沢森づくりサポートバンク事務局
〒920-1301 金沢市永安町77番地 (金沢市林業振興協議会内)
TEL:076-229-1699 FAX:076-229-1172



「ボケ」

今年の冬は昨年とは違って変わり暖冬。会社で準備したスノーダンプも1回も使わずに2月末に倉庫に保管し、もう冬タイヤも換えようかなーという声も聞かれました。

来年度4月からは新たな国の制度として、「森林経営管理制度」がスタートし、今まで手が付けられなかった森の整備を始める初年度になります。内容は発表されていますが、実際はどうなるのかなど不明な部分は不安ですが、とりあえず端緒についたので市町村担当者の奮闘を期待したいと思います。

当協議会の活動も3月18日(月)の不動寺小学校でのシイタケ115号植菌が今期最終活動ですが、森づくりはもう始まっていますね。

平成31年 森づくりイベント予定(一般参加可能活動)

日程	イベント内容(予定)	場所	問合せ先
5月11日(土)	きんしん東原の森づくり 森林整備と里山のめぐみをいただく	金沢市東原町	きんしん環境財団 076-231-7990
5月11日(土)	森のファミリースクール 木道作り、ツリークライミングなど	医王の里キャンプ場	テレビ金沢 076-240-9013
5月18日(日)	金沢テクノの森づくり2019春 森林整備と(キノコの植菌?)	金沢テクノパーク	金沢市森林再生課 076-220-2217
6月16日(日)	ササユリの里づくり ササユリ植栽地の整備	医王の里	日本ササユリ会事務局 076-231-5332

金沢森づくりサポートバンクのホームページをご覧ください!

「金沢森づくりサポートバンク」と検索してみてください。
会員団体皆様の森づくり活動の様子や当協会が運営するイベントの募集などを掲載し、道具の貸し出し申請書や会員登録用紙のダウンロードなどできるサイトとなっています。

森づくり通信の創刊号からも閲覧できるようになっており、皆さんの懐かしい活動写真もあると思います。



森づくり出前講座 実施報告

森づくり活動や森林の講座などに「森づくり専門員」を派遣しています。

森林の役割や森づくりの進め方などについて、森づくり専門員が説明するとともに、森の中での体験学習などを行っています。

例えば小学校の総合学習の時間に森林環境教育や森林の公益的機能についての授業を行う。または森づくり活動の際に現地に出向いて技術指導をするなど様々なテーマでの出前講座を実施しています。

森づくり出前講座の問合せ・申込みは 金沢市 森林再生課 TEL:076-220-2217 までお願いします

12/15・16 (土・日) 木育クリスマスヴィレッジ



金沢の森育推進事業として、市民親子に木のおもちゃや作品に触れ、遊んでもらう事で森や木に関心を持ってもらう事を目的に、金沢市民芸術村において2日間開催されました。親子で作った竹の楽器で金沢交響楽団と演奏を行いました。

12/26 (水) 四十万小学校ミニ門松作り



四十万小学校ウインタースクールとして、児童17名が寺山コミュニティサロン主催でミニ門松を作りました。事前に準備した地元の竹をノコギリで切り、飾り付けは金沢学院高校の美術の先生と生徒で指導してもらいました。

1/26 (月) 不動寺小シイタケの収穫と調理体験



3年生18名は森林について学ぶ中、学校グラウンド横の里山でシイタケを栽培しました。出前講座最終の今回は育てたシイタケを収穫し、調理室でシイタケ入りハンバーグを料理しました。私達も作ったハンバーグを児童と一緒に頂きました。

2/16 (土) 三谷里山の会ベンチ作り



三谷里山の会主催で地域の親子9名が三谷さとやま交流広場の施設において、昨年森の整備で間伐した宮野スギを使いベンチを2基作りました。部材を測りノコギリで切り、インパクトドリルで仕上げ、記念写真を撮りました。

2/27 (水) 米泉小学校出前講座



米泉小学校5年生55名は社会科の授業で森林の働きなどを学び、さらに深く学ぶために外部講師を招き出前講座を行いました。森林土壌の水質浄化実験をペットボトルで行い、緑のダム機能などを学んでいただきました。

3/18 (月) 不動寺小シイタケ植菌



不動寺小学校2年生25名を対象に、1年間の森の授業の手始めにシイタケの植菌を行いました。最初に教室でシイタケと里山の話をして、シイタケ生産者の宮川さんから育て方を指導してもらい、植菌を行いました。

金沢市 海岸松林 再生事業

金沢海岸の松林は防砂や防潮、防風のため先人が植栽、保育してようやく大きく成長し、人家や作物を守ってくれるようになりました。

ところが昭和の末頃から石川県でも、マツが大量に枯れる現象が目立ち始め、里山をはじめ貴重な海岸松林にまで被害が拡大してきました。

減少した海岸の松林を地域住民やボランティアの力で再生し、美しい松林を後世に引き継ぐために、金沢市が計画を策定し抵抗性クロマツを、栗崎から打木に至る金沢海岸に植栽しています。

※抵抗性クロマツとは松枯れの原因となるマツノザイセンチュウが、松の樹体内に侵入しても枯れにくい、抵抗力のあるクロマツです。



2/23 (土) 栗崎地区

栗崎パークゴルフ協会会員の皆さん100名が、抵抗性クロマツの苗400本を栗崎やすらぎの林ゴルフ場の一角に植栽しました。

植栽経験のある方もいましたが、改めて植え方の実演指導を行いました。



3/2 (土) 金石地区

金沢西・中央・菊水ライオンズクラブ会員50名が、金石・大野やすらぎの林において抵抗性クロマツの苗を200本植栽しました。

神事、記念植樹、標柱も立て、山野市長には挨拶、記念植樹を行って頂きました。



3/6 (水) 金石地区

金石・大野グランドゴルフ協議会の会員40名が参加し、グランドゴルフ場内に抵抗性クロマツの苗100本を植栽しました。

植栽場所の一部は低い場所があり、深植え厳禁で植えてもらいました。



3/12 (火) 専光寺地区

金沢市マレットゴルフ協会会員50名が参加して、専光寺ふれあいの森マレットゴルフ場内に抵抗性クロマツの苗を200本植えました。

天気も崩れがちでしたが、参加者は特典として作業後のプレーを楽しみました。



3/6 (水) 金石小学校 抵抗性クロマツの植栽

金石町小学校3年生45名が昨年に引き続き、学校近くの金石・大野やすらぎの林に抵抗性クロマツの苗を250本植栽しました。

導入として松と松ぼっくりの事について、晴れると松ぼっくりの笠が開き種を遠くまで飛ば



すなどの話をしました。

当日はテレビ局の取材もあり、2人ペアで一斉懸命植えインタビューに答え放映もされました。

作業後に記念標柱を立て、児童代表からは松を大切にしたいとの挨拶がありました。



森づくりの話 ⑳

前回からの続きで間伐についてザックリ分けると、定性的間伐と定量的間伐と機械的間伐の3種類に分けられます。定性的間伐は現場の樹木の大きさや形状、配置などを勘察して残す木と伐る木を決めて伐るやり方で、定量的間伐は管理図などで予め伐る本数を決めて現場で伐るやり方です。

機械的間伐は字のごとく機械的に木の配列の3列の内1列や4列の内1列を間伐するやり方です。

定性的間伐についてですが、この中でも代表的には2つの考え方があります。まず「下層間伐」と言われるやり方で、森の中の被圧木(林内の樹木に比べて成長が悪い木)や曲がり木などの不良木を中心に間伐を行い、間伐後は幹の太さと高さが健全な木になり災害に強く、成長も促進されると言われていますが、伐る本数によっては残した木の成長はあまり期待できないなどの指摘があります。

次に「上層間伐」についてですが、森の中で樹高が高く成長が良い木を中心に伐る考え方です。当然明らかな不良木は伐りますが、基本的に市場に出して高価に取引される木を伐るので残った木は将来不良木だらけになる可能性が大きくなります。

下層、上層とありますが、実際の現場ではそんなに単純に割り切れるものではなく、両方の考え方をミックスして行う方が良いように思います。しかしどちらにしても熟練の見立てが必要です。

刈払機取扱作業安全講習会について

刈払機を安全に正しく使うための講習会が実施されます。

森づくり活動を行う団体会員の中で、何人かは講習を受けておくと、作業効率が飛躍的に上がるのでお奨めいたします。

登録会員の方には受講に対しての支援を行っていますので、希望される方はこの機会に是非受講下さい。会場は石川森林文化ホール(金沢市東蚊爪)です。

● 刈払機取扱作業安全教育

● 【日時】平成31年 4月12(金)

※お問い合わせ・お申し込みは、4月4日(木)までに金沢森づくりサポートバンク事務局までお願いします。

※必ず金沢森づくりサポートバンクにお申し込み下さい。(直接申し込みは補助対象になりません)

編集雑記

「サルやらイノシシやら」

日本中の中山間地での大問題は「獣害」です。

森本方面に離れザルが2匹出没し新聞やテレビで報道され、小学校の運動場にも入り込んだ等の話も聞き、私たちが運転中に目撃しましたが1匹は足を引きずっていました。

森の中にシイタケを栽培している人では、サルの集団に全てとられてしまい何回見に行っても収穫できなかったとの話も聞き、福井の栽培家は竹檻でシイタケのホダ木を囲って防いでいるそうです。

サル以前にイノシシの被害もひどく、電柵で作物を守りサルにも盗られないようにネットを張るなどの防御は、ただでさえ高齢化が進んだ中山間地では困難です。自家消費で楽しみの為に作っている野菜が簡単に作れないとなると、昔から住み続けた折角の田畑や森を捨てざるをえません。

業者に駆除を依頼し経費をかけた対策を行っているような話も聞くので、耕作放棄や集落消滅などの総合的な観点から政策として何とかしてほしいものです。

金沢市森づくり専門員 加藤 八郎

